

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題 4

【地域の力を結集した「防災力」向上の取組】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

防災力の向上による区民の自助・共助力の強化、並びに公助力の充実を図ることにより、いつ大災害が起きても区民の命が守られ、ライフラインが途絶しても1週間、自宅または避難所で安心して生活（生き残れる）ができる状態

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

【災害対策】

○上町断層帯地震による被害想定

最大死者数 573名（人口千人あたりの死者数 24区中第2位）

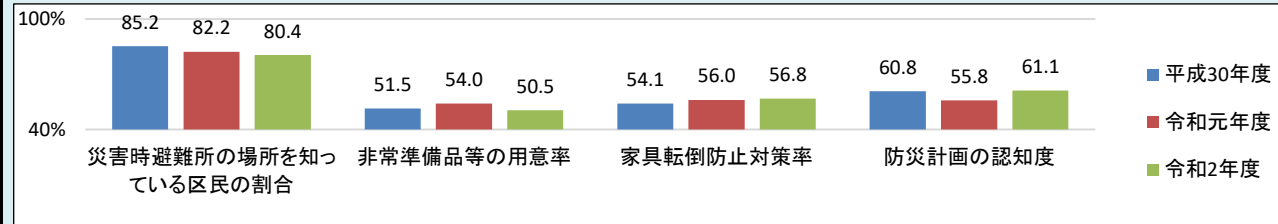
建物全半壊棟数 6,813棟（建物数比率 24区中第4位）（危機管理室調べ）

○南海トラフ巨大地震による被害想定

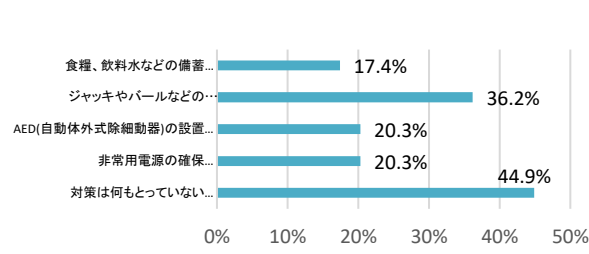
最大死者数 3名

建物全半壊棟数 2,106棟（大阪府防災会議公表）

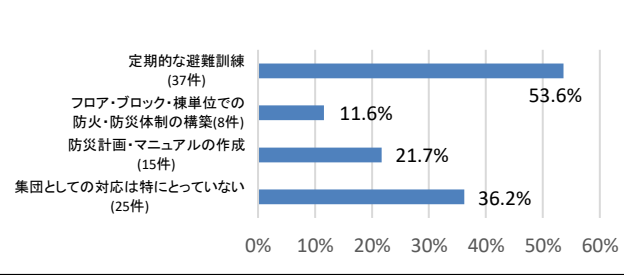
【区民モニターアンケート調査結果（平成30～令和2年度）】



マンションとしての備蓄面での対策（複数回答）

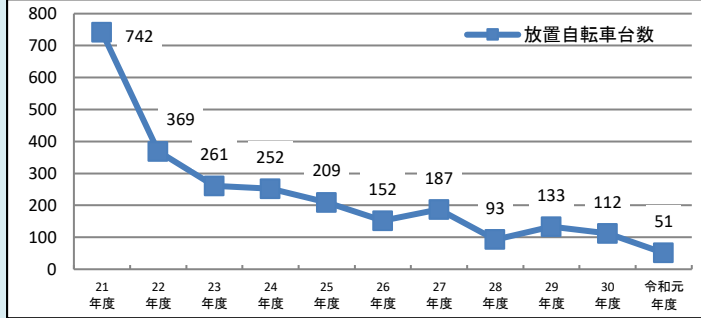
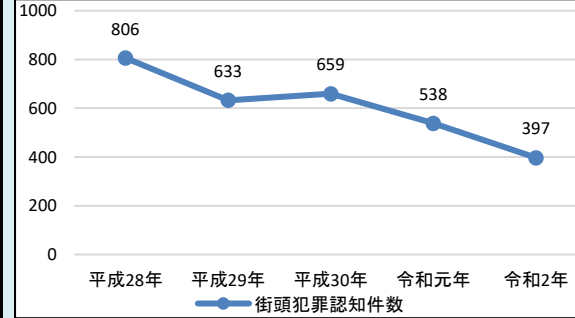


集団としての災害に備えた対応について（複数回答）



※大規模マンション向けアンケート(天王寺区実施【平成28年10月】)より【放置自転車】放置自転車の台数の推移

【安心安全まちづくり】天王寺区内における街頭犯罪認知件数



【空家対策に関すること(インターネットリサーチ会社による調査)】

周辺の特定空家等に不安などを感じている市民の割合 回答者数66名 該当者数2名 3.0%(市内全体11.6% 24区中最低値)

空家件数及び空家率 空家戸数6,080戸 空家率13.1%(市内全域17.1%) [平成30年住宅・土地統計調査]

対応中の特定空家(※特定空家:管理不全などにより安全、衛生、景観等の面で近隣住民の生活環境に支障をきたす空家)件数 5件(令和3年3月末現在)

今後5年程度の空家の活用意向がある所有者の割合 ※活用意向:賃貸、売却、除却、利用、建替の意向 ・大阪市内全域 84.5%

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・いつ大災害が起きても区民の命が守られる状態にするためには、区民の自助力・共助力の向上を図ることが重要な取組みのひとつであるが、災害時の持ち出し品等の用意率や家具の転倒対策率は依然として低い傾向にある。
- ・防犯カメラ増設置や防犯パトロールなどの取組にも関わらず、街頭犯罪認知件数は依然として多く、防犯カメラ設置の取組とともに防犯カメラ以外の取組も必要。
- ・放置自転車台数について、近年は減少傾向にある。(51台 ※元年度は新型コロナウイルスによる外出自粛の影響あり)
- ・天王寺区内には少数ではあるが特定空家が存在する。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・区民一人ひとりの「防災力」の向上による徹底した自助力・共助力の強化
- ・マンション住民の増加とマンションにおける防災対策の必要性を踏まえ、行政・地域とが連携した災害対策の推進
- ・災害時に支援を要する人を助けあう地域のつながりづくり
- ・街頭犯罪の抑止に向け、効果が高い防犯カメラの増設
- ・火災など災害時の救助活動の妨げとなる駅周辺の放置自転車対策の更なる推進、自転車マナーの向上
- ・特定空家等の所有者調査を進め、判明した所有者等について、助言・指導を行い是正を図るとともに、特定空家等の発生を未然に防ぐため、空家等の適切な維持管理や権利関係の整理の重要性、区役所の空家対策の取組について、広く周知、啓発を行っていく必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

- ・防災の取組について、一部順調に推移していないアウトカムがある。学習会や出前講座の開催、動画活用など様々な方法で啓発を進め、区民の災害への備え(自助)や、地域の防災対応力(共助)の向上につなげる必要がある。
- ・特に、マンション防災について、定期的に区内マンションを訪問するとともに、出前講座を開催するなど、マンション管理組合役員や居住者と防災の課題の共有を図り、マンション居住者の自助力・共助力の向上につなげる。また、マンション管理組合役員が短期(1～2年)で交代することを踏まえ、マンション内で自助・共助が行える体制づくりの必要について様々な機会に伝える。
- ・犯罪件数減少に向けた取組、空家対策の推進は順調に推移しており、今後も現在の取組を進めていく。

めざす成果及び戦略 4-1 【減災のための取組の強化(事前の備え)】

計画	めざす状態<概ね3~5年を念頭に設定>	戦略(中期的な取組の方向性)
	減災(事前の備え)に取り組む区民の増 アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標) ・非常準備品の用意率 令和3年度 世帯数の70%【重点目標】 ・家具の転倒対策率 令和3年度 世帯数の70%【重点目標】	減災(事前の備え)に関心の薄い層が災害対策情報等に触れる機会を充実し、区民の自助・共助の取組を促進する。

中間評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体	自助・共助の取組を幅広く周知啓発しているが、区民一人ひとりの行動の変化にまではつなげしていない。
	非常準備品の用意率 53.0%	50.5%	B	B	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
	家具の転倒対策率 56.6%	56.8%	B		広報紙やホームページ、動画配信、また出前講座で直接伝えるなど、様々な手法で啓発を行う。
戦略の進捗状況	b	a:順調 b:順調でない	A:順調 B:順調でない		

具体的取組4-1-1 【災害対策情報の発信・防災意識の啓発】★

元決算額 422千円 2予算額 255千円 3予算額 535千円

計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)
	<ul style="list-style-type: none"> 参加体験型の講座やイベント開催時の即席講座等、区役所が積極的に地域に向く「出前講座」を実施する。出前講座では、東日本大震災、熊本地震における被災地の状況も伝えることとし、非常時への備えなど災害対策の意識の向上に取り組む。 出前講座等の実施 12回以上 個々のマンションへ啓発ポスターの掲出依頼 100ヶ所以上 全世帯を対象に、家具転倒による被害を最小限にとどめるため、取付方法等を掲載したパンフレット、ポスターを作成し、家具転倒防止器具の取付の啓発を行う。 出前講座等での事業の周知 12回以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「出前講座」実施後のアンケートにおいて「今後活かせる」と回答する割合 80%以上 非常準備品の用意率 世帯数の70%以上 家具転倒防止対策率 世帯数の70%以上 【撤退・再構築基準】 「出前講座」実施後のアンケートにおいて「今後活かせる」と回答する割合が60%未満の場合には事業内容・手法を再構築する。 災害時の非常準備品の用意率が世帯数の30%を下回った場合には事業内容・手法を再構築する。 家具転倒防止対策率が40%を下回った場合は、事業内容・手法を再構築する。
	前年度までの実績	
	<ul style="list-style-type: none"> 各種出前講座等の実施回数および出前講座実施後のアンケートにおいて「今後活かせる」と回答した割合 令和2年度 12回 ※達成状況 89.7% 令和元年度 28回 ※達成状況 98.0% 平成30年度 33回 ※達成状況 95.2% 平成29年度 24回 ※達成状況 98.2% 災害時の非常準備品の用意率 令和2年度 50.5% 令和元年度 54.0% 平成30年度 51.5% 平成29年度 44.0% 家具転倒対策実施率 令和2年度 56.8% 令和元年度 56.0% 平成30年度 54.1% 平成29年度 55.3% 	

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (ii)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	<ul style="list-style-type: none"> ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成 		新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、出前講座等が実施できていないが、代替案として区役所公式YouTubeチャンネルに防災出前講座を公開するとともに、広報紙に啓発ポスターを掲出し、幅広い層の周知・徹底を図る。
	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)

中間評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	出前講座の実施 12回 個々のマンションへ啓発ポスターの掲出依頼 101ヶ所 出前講座等での事業の周知 12回	防災出前講座はコロナ禍の影響で申し込みがあったにもかかわらず複数回中止になったが、目標開催回数に達した。また講座内容については好評であった。非常準備品の用意率は前年度より上がっているが、目標値には届いておらず、家具転倒防止対策を含め、引き続き啓発の強化が必要。	
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	<ul style="list-style-type: none"> 「出前講座」実施後のアンケートにおいて「今後活かせる」と回答した割合 95.9% 非常準備品の用意率 53.0% 家具転倒防止対策率 56.6% 	出前講座実施後のアンケートの結果は、おおむね「今後活かせる」との評価を得ているが、出前講座の内容が参加者の行動につながるよう講座内容を工夫するとともに、広報紙の特集号も活用するなど、更なる啓発を図る。	
	<ul style="list-style-type: none"> ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成 	また、区内住居の約9割を占めるマンション居住者をターゲットに防災出前講座、マンション防災学習会、学ボーサイ(防災講座)などの啓発事業を継続し、非常準備品の用意や家具転倒防止対策について伝えていく。	
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)

めざす成果及び戦略 4-2 【減災のための取組の強化(被災後の備え)】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> 被災しても安心して安全に、自宅または避難所で生活できる区民の増	戦略(中期的な取組の方向性) マンション住民の増加という状況をふまえ、被災しても自宅または避難所で安心して生活できる環境および住民相互の支援体制を整備する。
	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標) 災害時避難所の場所を知っている区民の割合 令和3年度 90% ・区内マンションへのアンケートにより「災害時の自助の備え及び住民同士で救助活動・避難行動が行える体制ができている」と回答する割合 令和5年度 50%【重点目標】	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須 マンション内で災害時の自助の備え及び住民同士で救助活動・避難行動が行える体制ができていると回答するマンションの割合が目標に達せず、マンション側に防災の課題の浸透を図りながら、取組を進める必要がある。	
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体	
	災害時避難所の場所を知っている区民の割合	80.4%	B		B
	「災害時の自助の備え及び住民同士で救助活動・避難行動が行える体制ができている」と回答する区内マンションの割合	-	B		B
戦略の進捗状況		b	a:順調 b:順調でない	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須 区広報紙の活用や学習会等の開催、定期的に区内マンションを訪問するとともに、出前講座を開催するなど、様々な方法でマンションにおける自助・共助につながる防災対策について啓発を行う。またマンション管理組合役員が短期(1~2年)で交代することを踏まえ、マンション内で自助・共助が行える体制づくりの必要について様々な機会に伝えていく。	

具体的取組4-2-1 【マンション防災・地域との連携支援】★

		元決算額	3,229千円	2予算額	3,803千円	3予算額	2,364千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	南海トラフ巨大地震や上町断層帯地震への備えを強化するため、これまで連携の薄かった様々な地域資源との新たなつながりを広げ、それぞれの持つ特性を活かして防災力の向上を図る。 具体的には次の2項目に取り組む。 ・天王寺区はマンション等の集合住宅が非常に多いという区域特性があることから、専門性をもつ人材により、個々のマンションにおける自助・共助の体制構築を進めるとともに、課題及び優れた取組を共有する機会を設け、マンションにおける防災力の向上につなげる。 マンション防災学習会の開催 2回 マンション住民を対象にした防災カフェの開催 3回 個々のマンションへの個別支援 15件以上 ・区内の企業・事業所に対して災害時協力企業・事業所への登録を呼びかける。 企業・事業所への働きかけ 3回以上	・区内マンションへのアンケートにより「災害時の自助の備え及び住民同士で救助活動・避難行動が行える体制ができている」と回答する割合40%以上 【撤退・再構築基準】 ・アンケートで「体制ができている」と回答する割合が20%未満の場合、事業手法を再構築する。					
		前年度までの実績					
		令和2年度 ・個々のマンションへの個別支援件数 9件 ・災害時協力企業・事業所への登録呼びかけ 3回 災害時協力企業・事業所新規登録件数 2件					
		令和元年度 ・個々のマンションへの個別支援件数 30件 ・災害時協力企業・事業所への登録呼びかけ 3回 災害時協力企業・事業所新規登録件数 0件					
		平成30年度 ・個々のマンションへの個別支援件数 33件 ・災害時協力企業・事業所への登録呼びかけ 3回 災害時協力企業・事業所新規登録件数 0件					
		平成29年度 ・個々のマンションへの個別支援件数 10件 ・災害時協力企業・事業所への登録呼びかけ 13回 災害時協力企業・事業所新規登録件数 6件					

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (ii)	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 個々のマンションへの個別支援により、1件の自主防災組織を新規構築した。一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、マンション防災学習会や防災カフェ(改称・学ポーサイ)の開催を延期した。個々のマンションからの個別支援要請は随時上がるため、機会を確実にとらえ、マンション防災の啓発と体制構築および地域との連携支援を図る。
	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 マンションの個別支援がコロナ禍により中止になったものもあり予定支援回数に届かなかった。 新しい取り組みである学ポーサイを実施したが、参加人数が少ない回があった。	
	プロセス指標の達成状況	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須 学ポーサイの開催通知は広報紙やホームページだけではなく個別のマンション訪問も行い周知する。	
	「災害時の自助の備え及び住民同士で救助活動・避難行動が行える体制ができている」と回答する区内マンションの割合	22.2%	② (i)
戦略に対する取組の有効性		ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)

具体的取組4-2-2

【被災者支援の充実】

		元決算額	364千円	2予算額	2,678千円	3予算額	504千円																								
計画	<p>当年度の取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時避難所における備蓄品の充実を図るために備蓄品を配備する。また、避難行動要支援者のための福祉避難所を追加指定する。 備蓄品の充実 20ヶ所 福祉避難所の指定 1ヶ所 大規模災害時、避難等に支援が必要な避難行動要支援者について、名簿を更新し地域に提供 全地域 	<p>プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）</p> <p>災害時避難所等における備蓄品の充実が着実に進められていると感じる区民の割合 60% 【撤退・再構築基準】 40%未満の場合には再構築する。</p> <p>前年度までの実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 備蓄物資の充実 <table border="1"> <tr><td>2年度</td><td>20ヶ所</td><td>※達成状況</td><td>54.0%</td></tr> <tr><td>元年度</td><td>20ヶ所</td><td>※達成状況</td><td>52.8%</td></tr> <tr><td>30年度</td><td>20ヶ所</td><td>※達成状況</td><td>55.3%</td></tr> <tr><td>29年度</td><td>20ヶ所</td><td>※達成状況</td><td>49.8%</td></tr> </table> 福祉避難所の指定 <table border="1"> <tr><td>2年度</td><td>0ヶ所(累計 11ヶ所)</td></tr> <tr><td>元年度</td><td>0ヶ所(累計 11ヶ所)</td></tr> <tr><td>30年度</td><td>1ヶ所(累計 11ヶ所) ※指定解除1ヶ所</td></tr> <tr><td>29年度</td><td>1ヶ所(累計 10ヶ所)</td></tr> </table> 						2年度	20ヶ所	※達成状況	54.0%	元年度	20ヶ所	※達成状況	52.8%	30年度	20ヶ所	※達成状況	55.3%	29年度	20ヶ所	※達成状況	49.8%	2年度	0ヶ所(累計 11ヶ所)	元年度	0ヶ所(累計 11ヶ所)	30年度	1ヶ所(累計 11ヶ所) ※指定解除1ヶ所	29年度	1ヶ所(累計 10ヶ所)
	2年度	20ヶ所	※達成状況	54.0%																											
元年度	20ヶ所	※達成状況	52.8%																												
30年度	20ヶ所	※達成状況	55.3%																												
29年度	20ヶ所	※達成状況	49.8%																												
2年度	0ヶ所(累計 11ヶ所)																														
元年度	0ヶ所(累計 11ヶ所)																														
30年度	1ヶ所(累計 11ヶ所) ※指定解除1ヶ所																														
29年度	1ヶ所(累計 10ヶ所)																														
中間振り返り	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>① (i)</p> <p>①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成</p>	<p>課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>																													
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>—</p>	<p>ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す —: プロセス指標未設定(未測定)</p>																													
自己評価	<p>当年度の取組実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 備蓄物資の充実 20ヶ所 福祉避難所の指定 0ヶ所 	<p>課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>通所施設連絡会で福祉避難所の説明を行ったが、指定にはいたらなかった。</p>																													
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>災害時避難所等における備蓄品の充実が着実に進められていると感じる区民の割合 53.3%</p> <p>② (ii)</p> <p>①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成</p>	<p>改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在在宅避難ができるよう各家庭での備蓄の必要を積極的に広報しているが、災害時避難所等においても備蓄を進めていることも出前講座等の機会に引き続き伝える。 通所施設連絡会で福祉避難所の説明を行う。また、区社協・包括支援センターとも連携し、関係者が集う機会に福祉避難所の説明を行い、関係者の理解を深める取組を行う。 																													
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア</p>	<p>ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す —: プロセス指標未設定(未測定)</p>																													

めざす成果及び戦略 4-3 【誰もが安全で安心して暮らせるまちづくり】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定> 街頭犯罪が減少し、安全で安心して学び遊べるまち	戦略(中期的な取組の方向性)
	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標) 街頭犯罪発生件数 対平成28年比 2割減(令和3年)	防犯カメラや青色防犯パトロール車による巡回などの取組により、安全確保を促進する。

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題	※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況		前年度	個別	全体
	街頭犯罪発生件数 383件		397件	A	A
		A:順調 B:順調でない		今後の対応方向	※有効性が「イ」の場合は必須
	戦略の進捗状況	a	a:順調 b:順調でない		

具体的取組4-3-1 【犯罪件数減少に向けた取組】

		元決算額	1,866千円	2予算額	2,703千円	3予算額	2,702千円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)					
	地域や警察と連携を図りながら、区内における街頭犯罪の発生件数を減少させるため、地域安全パトロール隊による公園や道路の巡視などを行なう。 ・青色防犯パトロール車による巡回 年間240回以上 ・防犯カメラの設置状況の周知 1回	区役所の防犯の取組が効果的であると感じる区民の割合 70%以上 【撤退・再構築基準】 50%未満の場合には事業内容・手法を再構築する。					
		前年度までの実績					
		令和2年度 青色防犯パトロール車による巡回 415回 ※達成状況 82.0% 防犯カメラの設置状況(441台) 区HPに掲載済(令和2年4月現在) 令和元年度 青色防犯パトロール車による巡回 241回 ※達成状況 82.1% 平成30年度 青色防犯パトロール車による巡回 245回 ※達成状況 80.5% 平成29年度 青色防犯パトロール車による巡回 236回					

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	① (i)	課題と改善策	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	—	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)	

自己評価	当年度の取組実績	課題			※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	・青色防犯パトロール車による巡回 338回 ・防犯カメラの設置状況の周知 1回				
	プロセス指標の達成状況				
	区役所の防犯の取組が効果的であるとを感じる区民の割合 78.7%	① (i)	改善策	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成				
	戦略に対する取組の有効性	ア	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)		

具体的取組4-3-2

【安心して生活できる環境づくり(空家等対策推進・迷惑駐輪対策)】

元決算額 2,049千円 2予算額 2,157千円 3予算額 2,158千円

計画	<p>当年度の取組内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定空家等の所有者調査を行う(通報があった特定空家全件) ・是正に向けた助言、指導の実施(所有者が判明した物件全件) ・広報紙、ホームページでの空家の適切な維持管理等に関する啓発の実施(広報紙:2回、ホームページ:通年) ・空家の活用事例紹介(ホームページ:通年) ・安全パトロール隊職員による空家の調査 随時 ・駅周辺の地域住民と快適な環境づくりについての意見交換により「迷惑駐輪しにくい環境づくり」に向けて、創意・工夫を活かした啓発事業を市民協働型事業として実施(ゆめまちロード) 1駅 ・放置自転車の撤去及び自転車駐輪場の整備を建設局に指示 	<p>プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺の特定期空家等に不安などを感じている市民の割合 8.5%以下 ・特定空家等の解体や補修等による是正件数 2件以上 ・空家の活用意向を示す件数 1件以上 <p>【撤退・再構築基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度調査実績(16.9%)以下にならなければ、事業を再構築する。 ・特定空家等の解体や補修等による是正件数が0件の場合は、事業を再構築する。 ・空家の活用意向を示す件数が0件の場合は、事業を再構築する。 <p>前年度までの実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺の特定期空家等に不安などを感じている市民の割合 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 3.0% 令和元年度 0% 平成30年度 8.1% ・特定空家等の解体や補修等による是正件数 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 7件 令和元年度 5件 平成30年度 3件 ・空家の活用意向を示す件数 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度 1件 令和元年度 1件 平成30年度 0件
----	--	--

中間振り返り	<p>プロセス指標の達成状況</p> <p>① (i)</p> <p>①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成</p>	<p>課題と改善策</p> <p>※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>—</p> <p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)</p>	

自己評価	<p>当年度の取組実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定空家等の所有者調査の実施 ・是正に向けた助言、指導の実施(所有者が判明した物件全件) ・広報紙、ホームページでの空家の適切な維持管理等に関する啓発の実施(広報紙:2回、ホームページ) ・空家の活用事例紹介(ホームページ:通年) ・安全パトロール隊職員による空家の調査 ・「迷惑駐輪をしにくい環境づくり」に向けて、創意・工夫を活かした効果的で総合的な啓発事業を寺田町駅で実施 0回(コロナ禍により未実施) ・放置自転車の撤去及び自転車駐輪場の整備を建設局に指示 	<p>課題</p> <p>※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>
	<p>プロセス指標の達成状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺の特定期空家等に不安などを感じている市民の割合 (意識調査の指標見直しに伴い測定せず) ・特定空家等の解体や補修等による是正件数 4件 ・空家の活用意向を示す件数 1件 <p>① (i)</p> <p>①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成</p>	<p>改善策</p> <p>※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須</p> <p>—</p>
	<p>戦略に対する取組の有効性</p> <p>ア</p> <p>ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)</p>	